



島根県がん診療ネットワーク協議会を開催しました

医療サービス課がん診療担当 係長 なかばやし なるえ
中林 愛恵

2月28日(水)に2023年度島根県がん診療ネットワーク協議会をオンラインにより開催しました。

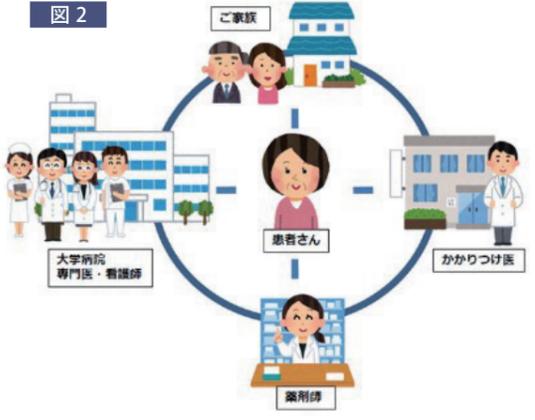
この協議会は都道府県がん診療連携拠点病院である当院が事務局となり、各医療機関におけるがん診療連携体制の支援、県下におけるがんの医療水準の向上を図ることを目的として設置されたもので、がん診療部会、がん生殖医療ネットワーク、がん登録部会、がん相談員実務担当者会、緩和ケア研修委員会等各部会から構成しています(図1)。

本会議にはがん拠点病院をはじめ、県内の22病院、島根県がん対策推進室、医師会、薬剤師会、看護協会に加え各地域の保健所から多くの出席があり、出席者からはさまざまな質問や意見があり活発に意見交換されました。

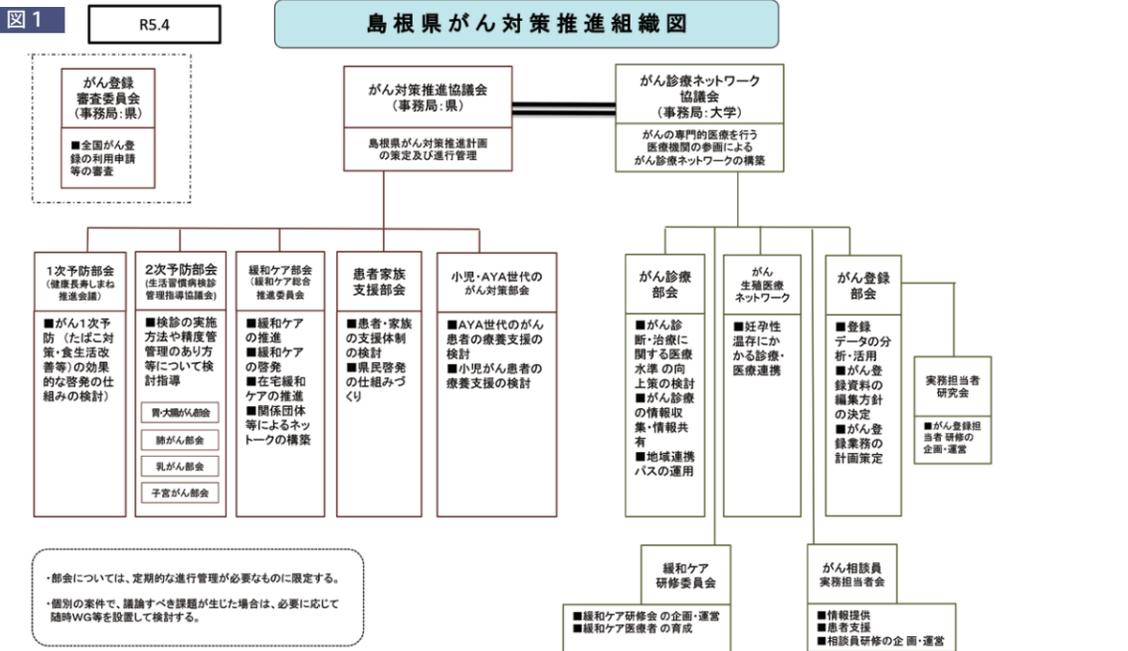
また各地域の患者団体の代表者からは、患者が安心して治療を受けて生活ができるよう適切な医療体制の提供、退院後の生活に係る丁寧な説明や地域のかかりつけ医との連携について要望や質問があり、それぞれ各病院長等から回答がありました。

当院では、今後も患者さんに寄り添った医療を提供するとともに県内医療従事者の人材育成、医療機関の連携強化により一層努めてまいります。

県内医療機関の皆様におかれましても、引き続き「がん地域連携パス」(図2)等によるがん診療連携の強化にご協力賜りますようお願い申し上げます。



がん地域連携パスのフロー



NEWS

島根大学医学部附属病院
Shimane University Hospital

CONTENTS

中表紙
・新年度のご挨拶「求められる医療」
・島根大学 学長特別補佐(医学研究担当) 就任のご挨拶

裏表紙
・島根県がん診療ネットワーク協議会を開催しました

表紙: 病院長 椎名 浩昭
副病院長 田邊 一明、大野 智、金崎 啓造、鬼形 和道、川上 利枝



新年度のご挨拶 「求められる医療」



病院長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

本年4月からもう一期3年間島根大学病院長を拝命いたしました椎名です。病院の運営責任者としてご挨拶申し上げます。

島根大学病院の理念は、地域医療と先進的な医療を調和し、良質で安心・安全な医療を地域に還元することにあります。当院では、島根県の保健医療計画に沿って5疾病・6事業の医療提供体制の整備に加えて、在宅医療につながる高齢者医療の橋渡しの役割にも重点を置いた病院運営を行います。少子高齢化に対応しつつ過不足のない充実した医療を地域に提供することが我々の使命で、当院は県内でも最も公益性の高い病院であり、その位置付けを乱すことのない病院運営が求められます。他院では難しい医療は当院が中心となって行うべきで、特に少子高齢化の影で、その存在が薄くなるようなことがないよう、小児医療の充実化を図ります。小児心臓血管外科、小児外科あるいは小児脳神経外科などの特殊な小児医療には特に力を入れ、親子ともども安心して住めるような医療提供環境を整備します。また緩和ケアセンターを中心に人生の最終段階における医療・ケアのあり方を地域とともに考え実践して参ります。1987年11月に我が国で初めて行った生体肝臓移植は通常の医療へと展開いたしましたが、当院では諸事情により肝臓移植は行っておりませんでした。この肝臓移植の再開に向け医療提供体制の整備も行います。

一方、皆様から頂いた意見の中で、特に「待ち時間に関する不満」は強く、この改善策として、料金後払いシステム「らく〜だ」に加えてAIを用いた患者ナビゲーションシステム「愛ナビ」を本格的に稼働します。また、患者さんの情報(Personal Health Record)をご自身で管理・活用できるよう体制整備を図り、病病・病診連携を介してより地域に密着した利便性の高い病院運営を実践したいと思っております。

本年度から「医師の働き方改革」が新しい制度として始まります。「改革」という言葉が一人歩きしないよう、地域の皆様にはご理解をいただくとともに、職員のひとり一人が求められる医療に真摯に向き合い、我執を捨て患者さんの幸せを第一に考えられるよう利他行を積んで参ります。

今後とも島根大学病院へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

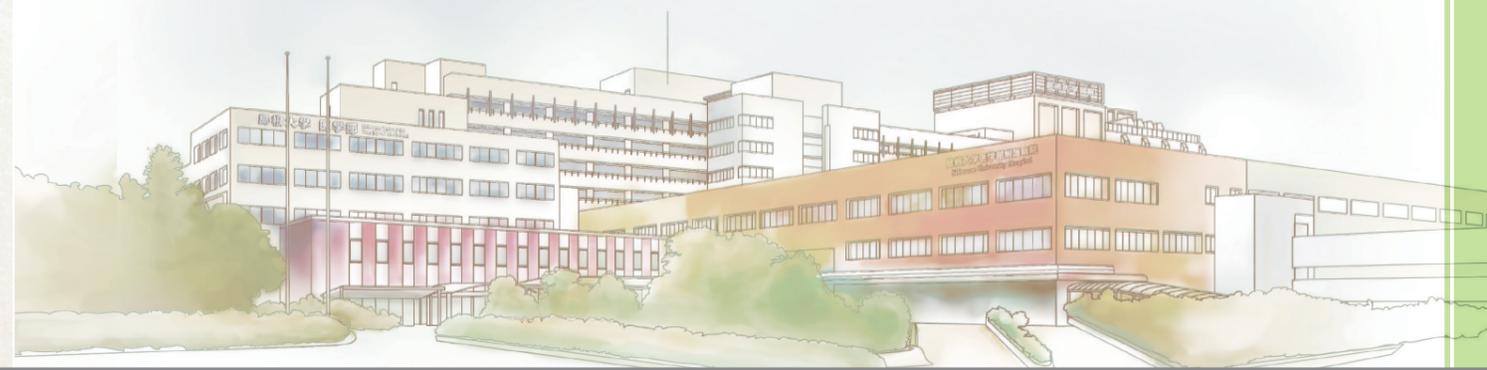
島根大学 学長特別補佐(医学研究担当) 就任のご挨拶

学長特別補佐(医学研究担当) うらの たけし
浦野 健

この4月より島根大学学長にご就任された大谷浩学長をお支えする学長特別補佐に就任いたしました。

医学部及び附属病院における教育・研究の更なる発展を遂げるためには、構成員が自分の持てる能力を最大限に発揮することはもちろんですが、大学本部との綿密な連携は必要不可欠です。

大谷学長は医学部教授(解剖学講座)・教育研究評議会評議員・副学長(医学教育・研究担当)・医学部長(2期4年)・理事(SDGs・研究推進・産学連携・グローバル化推進・地域連携担当)として島根大学及び医学部の教育・研究を推進してこられました。少子化・働き方改革など、全国の地方国立大学医学部が置かれた現在の厳しい状況において、また全学的なマニフェストである第4期中期目標の達成に向けて、大谷学長がこれまで大事にされてきた「現場とのコミュニケーション」を基本とし、石原医学部長・椎名病院長をはじめ医学部および附属病院の先生方と綿密にコミュニケーションを取らせていただき、全学を俯瞰しながら大学本部との橋渡しとして、持てる力を存分に発揮する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。





ご報告



お知らせ

高難度の胸部大動脈瘤の手術に成功しました！

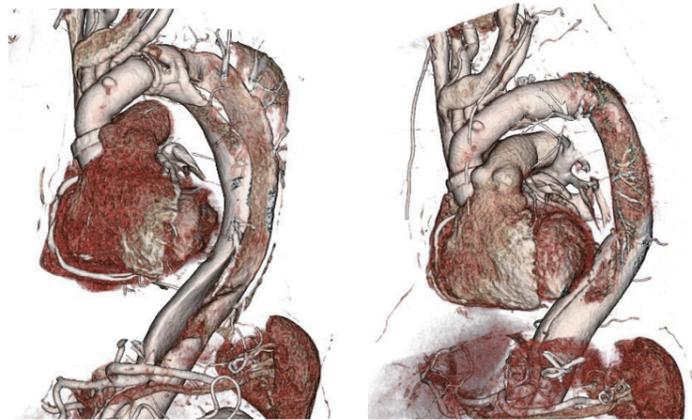
心臓血管外科 診療科長 やまざき かずひろ
山崎 和裕

患者さんは75歳男性、2016年8月に急性大動脈解離に対して当科で上行弓部大動脈人工血管置換術を、その後近くの病院で定期的に診察を受けていました。最近になり、残存大動脈解離、特に前回人工血管末梢吻合部付近から胸部下行大動脈の瘤化ならびに拡大が進み、6cmを越えたため手術適応と診断され当科に紹介となっております。

手術は、全身麻酔・分離片肺換気下に、左腋窩から左季肋部までの直線的な皮膚切開で左胸腔に入り、左大腿動脈送血、左大腿静脈脱血で人工心肺を開始して、膀胱温20℃まで全身冷却を行い、循環停止下に弓部～下行大動脈人工血管置換術を行いました。手術時間は7時間24分。人工心肺時間18分。低体温送血時間93分でした。術後経過は良好で、術3日目に人工呼吸器離脱。5日目にICU退室されました。

今回、この脳梗塞や脊髄梗塞の合併症発生の高い難手術を、京都大学大学院医学研究科心臓血管外科の湊谷謙司教授と共同で行いました。

大動脈疾患は、高齢化と血管内治療など初回治療の安定化が進む中、今後、複雑な患者背景に加えて、再手術や今回の症例のような追加手術など困難な手術の増加が予想されます。これらの手術は個人の力量だけでは限界があり、治療チームとしての総合力が求められます。今後も症例を重ね、当科も含めて麻酔科の先生方や看護師、臨床工学技士など、全員の知識や経験・力量向上を図り、島根大学病院として大動脈疾患に対し安全で確実な手術が行えるよう一丸となって頑張っていきたいと思います。



術前CT

術後CT

問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384

総合的なアレルギー治療に取り組んでいます！

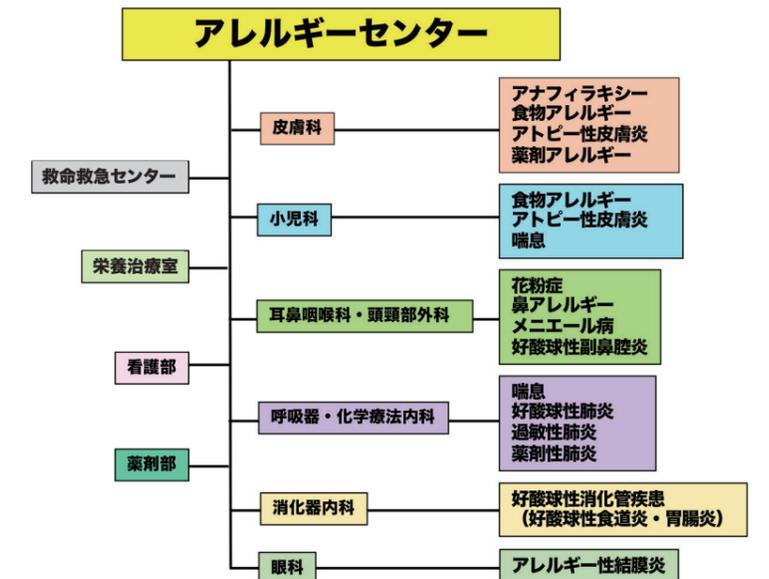
アレルギーセンター センター長 たけした たけし
竹谷 健

全国の大学病院では3番目の早さで2017年4月に開設しましたアレルギーセンターは、7年目を迎えます。気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、薬剤や金属などの特殊なアレルギー、アナフィラキシーといった代表的なアレルギー疾患だけでなく、好酸球性副鼻腔炎、好酸球性肺炎、好酸球性消化管疾患、薬剤性肺炎などの専門的な診断と治療を要するアレルギー疾患に対して、皮膚科、呼吸器化学療法内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、消化器内科、眼科、小児科だけでなく検査部、栄養管理室などの多職種が横断的に診断・治療・管理を行なっています(図1)。

最近、多くのアレルギー疾患に対して生物製剤および分子標的薬が適応となりましたので、患者さんの病状に合わせて、適切な治療薬を提供しております。また、毎年2回、市民公開講座を開催して、乳幼児から小児、成人、高齢者まですべての年代の皆さまのニーズに応じたテーマでアレルギー疾患の啓発も行なっております。

当院は、「アレルギー疾患対策基本法」に沿って医療の提供体制の充実を図るために設けられたアレルギー疾患医療拠点病院に制定されています。これからも、行政、県内の医療施設や薬局、学校、保健所などと連携して、県民の皆様におけるアレルギー疾患に関する知識の普及、島根県全体のアレルギー疾患診療のレベル向上と均てん化、アレルギー疾患に関する調査や研究に中心的な役割を果たして参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

図1 アレルギーセンターの組織図と対象疾患



問合せ先 小児科外来 TEL: 0853-20-2383





お知らせ



小児外科からのご案内

4月から診療体制が変わります

小児外科 助教 いしばし しゅういち
石橋 脩一
特任講師 くもり こうじ
久守 孝司

長年、当院小児外科の診療を牽引してきた久守医師が3月末をもって退職したことに伴い、小児外科の診療体制が変わります。久守医師は、県西部、石見地方の小児外科患者の診療の拠点としている西部島根医療福祉センター（江津市）に籍を置くことになり、その上で、週に3日間（火曜日～木曜日）、当科の診療に関わることになりました。

最も大きく変わるのが外来の診療体制で、月曜日と金曜日に石橋医師が、木曜日に久守医師が対応します（表1）。木曜日の外来は、長年通院している

患者さんが引き続いて受診されますので、初診の方は、原則として月曜日か金曜日にご紹介いただければ幸いです。

手術については、予定手術を火曜日終日、水曜日終日、金曜日の午後に行います。年間350例前後の手術を、レベルを落とすことなく全力で実施していく所存です。火曜日と水曜日の手術には、久守医師も対応します。また、新生児手術、小児がんの手術も従来通り実施します。

なお、県下4病院で行ってきた小児外科の専門外来は今後も継続されます（表2）。いずれも予約が必要です。予約方法等は各病院までお問合せください。

今後は、石橋助教が先頭に立って本県の小児外科医療を牽引して参りますので、ご支援のほど、何卒よろしくお申し上げます。

表1	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
初診 再診	石橋			久守	石橋
備考	<ul style="list-style-type: none"> 初診は原則、月曜日か金曜日にご紹介下さい。 緊急の場合、ご連絡下さい。小児外科医から電話させていただきます。 《連絡先》 時間内：小児外科外来 TEL:0853-20-2383 時間外：小児センター病棟 TEL:0853-20-2616				

表2	病院名	外来日	担当医
1	松江赤十字病院	毎週金曜日午後	久守
2	東部島根医療福祉センター	原則第1金曜日	久守
3	島根県立中央病院	原則第1月曜日	真子
4	西部島根医療福祉センター	毎週金曜日・土曜日	久守

※いずれも予約が必要です。予約方法については各病院へお問合せください。

問合せ先 小児外科外来 TEL: 0853-20-2383



ご報告



成長体験発表会 (2月20日)

成長体験発表会 (2月21日)

新人看護職成長体験発表会 ～新人の成長を共有する～

看護部看護教育支援室 看護師長 たけもと かずよ
竹本 和代

毎年、看護部では、その年に入職した新人看護職成長体験発表会を行っています。

看護師の免許を取得しての1年目は、集合研修でシミュレータを使用して、患者さんにとっての安全で安楽な方法について学びを深め、かつ臨床の現場では、先輩看護師に指導を受け、段階的に多くの看護技術を習得していく濃密な1年です。

新人看護職は1年間の看護経験を振り返り、「私に関わった患者さんとの印象に残った看護エピソード」をテーマに2月20日（火）、21日（水）両日に看護職員の前で発表しました。その後、1年間の院内研修の様子や各部署の先輩看護職から新人看護職へのメッセージをスライドショーで上映しました。

また、出身学校の先生方にもご参加いただき、メッセージを頂きました。新人看護職からは、「いろんな経験を聞いて自分のことも振り返りながら共感できることも学べることもあった」「これからもっと成長していけるように頑張りたいと思えた」等の感想が寄せられました。また、聴講した先輩看護職からも「患者さんを通して学んだことを振り返り、今後どんな看護をしていきたいのかまで考えを発表できてよかったと思った」「発表を聞いて皆さんの患者さんに対して丁寧に関わろうとする気持ちや悩んだこと、不安だったことを内省して前に進もうという気持ちに私も頑張ろうと思えた。何年たっても一緒に成長していきたいと思った」等の感想が寄せられました。

皆で新人看護職の1年間の頑張りを共有し、自己の看護や指導について思いを新たに、改めて一緒に頑張っていこうと思える時間となりました。



発表の様子

問合せ先 看護部 TEL: 0853-20-2478





ご報告

島大病院ニュース 2024年4月

写真1



写真2



在宅訪問看護研修会を開催しました ～退院前後訪問を振り返り、改めて考える在宅療養支援～

看護部長 かわかみ としえ
川上 利枝

3月7日(木)、島根県の「在宅医療の推進に関する事業—在宅医療に関する体制整備事業—」の一環として、シンポジストに地域の訪問看護ステーションの訪問看護師3名に参加いただき在宅訪問看護研修会を開催しました(図1)。

当院では、2018年度より病院看護師が訪問看護ステーションや医療機関等の看護師と連携し患者宅に同行訪問を行っています。コロナ禍を経て、今年度より本格的に再開し、2024年2月末までに32件の退院前後訪問を行いました。

研修会では、入退院支援リンクナースによる退院前後訪問の事例報告、訪問看護師より同行訪問時の報告をしていただきました。シンポジウムでは、院内の他職種を交え『退院前後訪問を振り返り、改めて考える在宅療養支援』をテーマに意見交換を行いました(写真1・2)。病院看護師からは「訪問看護師の視点で、在宅療養支援のために病院看護師に求められていることが聞けた」「退院前訪問やカンファレンスなどで地域支援者と情報共有を早めに密に行うことが必要」「日々の看護にとどまらず、常に患者さんの生活を見据えて、自分たちができること、地域の支援者と連携しながら目指す看護を実践したい」などの声がありました。

今後も、病院の理念である「地域医療と先進医療が調和する大学病院」のもと、更に自施設と地域との連携を図り、患者さん・ご家族の安心と看護の質を保証したケアを継続して行い、入院医療から在宅医療へつないでいけるよう積極的に取り組んでいきます。

問合せ先 看護部 TEL: 0853-20-2478



2024年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

島大病院ニュース 2024年4月

島根県
唯一!!

乳がん内視鏡補助手術を行っています

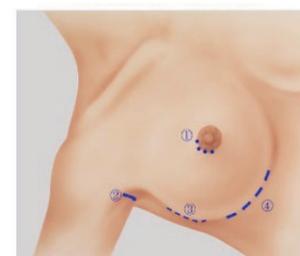
乳腺センター 副センター長 かどや たかゆき
角舎 学行

乳がんでは、腫瘍の大きさが小さい場合(一般的には2センチ以下)に乳房部分切除が可能となります。術後に残った乳腺に放射線照射することが必須ですが、乳房部分切除後の生存率は乳房全切除した場合と差がありません。

乳房部分切除のメリットは、全切除と比べて体に受けるダメージが少ないことと乳房がバランス良く残せることです。しかし通常の乳房部分切除の場合、腫瘍があるすぐ上の皮膚を切開しますので、いくら乳房をバランス良く残せても表面にケロイドのような傷が残ったり赤く目立ったりすることもあります。

乳腺内視鏡補助手術は、乳輪沿い、腋窩、乳房の下などに皮膚切開をおき、内視鏡を用いて小さな傷から切除を行いますので、術後に正面から見ても傷が目立ちません。この術式は開発後改良を加えながら進化し、乳腺部分切除の多くを内視鏡補助手術で行っている大学病院もあり、乳房のバランスや傷跡の綺麗さだけでなく、再発が少なく安全な手術と実感しています。

近い将来、乳腺部分切除だけでなく全ての乳がん手術において内視鏡手術が標準になる可能性があります。当院でも内視鏡補助手術を開始しており、安全で綺麗な手術を行なっています。島根県内で乳がんに対して内視鏡を使った手術が出来るのは当院だけです。乳房全切除の場合もこの内視鏡手術の技術を応用した綺麗な手術を行うことができますので、周りの方々にもぜひ、当院での手術を勧めただけければと思います。

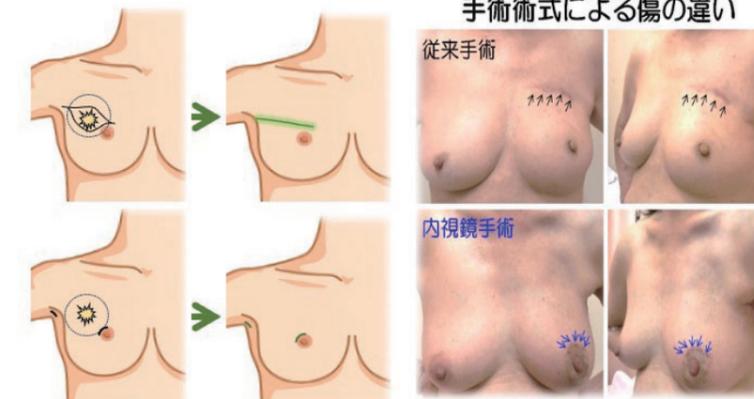


皮膚切開は①乳輪沿い、②腋窩、③中腋窩線、④乳房下溝におくと目立ちません。



内視鏡手術の経験豊富な医師が、特殊な手術器具、内視鏡を駆使して手術を行います。

手術術式による傷の違い



問合せ先 外科外来・乳腺センター TEL: 0853-20-2384



2024年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告

写真1

写真2



令和5年度

島根大学学位授与式を挙行了しました

学務課学生支援・総務担当

3月13日(水)に医学部体育館にて学位授与式ならびに学位記伝達式を挙行了しました。

学位授与式は新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、人数制限を設けずコロナ禍前の方法に戻して開催しました。ご来賓の方や保護者の皆さまも招待して、盛大な式典となりました(写真1)。医学科、看護学科の各代表が学位記を受け取り、服部学長から式辞を、島根県健康福祉部安食治外部長からは丸山県知事の祝辞を代読いただきました。

また、式中には「ジュネーブ宣言」の宣誓があり、卒業生は医の倫理を守ることを誓いました(写真2)。

引き続き行われた学位記伝達式では、石原医学部長より卒業生全員に学位記が授与されました(写真3・4)。石原医学部長はお祝い言葉の中で「学生時代に新型コロナウイルスの感染拡大を体験して大変苦労したと思いますが、逆に言えば誰も経験していないことを経験しているということです。その経験を生かして今後の医療の現場で活躍してくれることを信じています。」とエールを送りました。

今年度の卒業生は、新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限の影響を最も受けた学年でした。その卒業生を盛大な式で送り出すことができ、本当に良かったと思います。卒業生は、4月からそれぞれの選んだ道を歩んでいきます。今後立派な医療人として、社会の様々な場面で活躍を期待しています。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL: 0853-20-2088



写真3

写真4 島根大学学位授与式



性の多様性に配慮した診療体制の整備に向けて

性の多様性に配慮した診療体制整備WG 座長 まきいし てつや 牧石 徹也

当院では、多様な性的指向・性自認を有する方への理解を深め、患者さんが安心して受診・治療を行えるよう、また当事者である職員や学生が平穩に勤務・修学ができるよう院内体制及び環境の整備をすすめるべく、昨年10月にワーキンググループ(以下、WG)を設置し、医師、看護師、心理士、医療ソーシャルワーカー、事務職員で検討を開始しました。

必要な体制、環境面の整備を行うためには構成員の理解と協力が不可欠であり、まずはWGメンバーが理解を深めることからスタートすることとし、有識者や当事者の方を講師としてお招きし院内勉強会を開催しています。

第1回は2月5日(月)に本学ダイバーシティ推進担当の河野美江副学長から、性の多様性を知り、島根大学として附属病院としてどう取り組んでいくべきかを学びました。

第2回は3月4日(月)、主に島根県内で啓発活動に取り組む佐藤みどり氏をお迎えし、ご自身の経験や統計データをまじえ、当事者の方が医療サービスを利用するときにどこに困難を感じるか、医療者はカミングアウトを受けたときにどのような対応が求められるかなどについてお話いただきました(写真1・2)。途中、参加者同士で議論する場面もあり、自身の考えや疑問を語り合い、気づきを得ることができました。

特に、当事者の方は、家族や周囲の友人にも言えない悩みを抱えている方も多く、初めて訪れる病院を受診するときのハードルは、我々医療者が想像するよりもはるかに高く、それゆえに受診を控えていることを知りました。質疑応答では、参加者からの質問に当事者ならではの視点でフランクに答えていただき、非常に有意義な勉強会となりました。一方で医療現場では、患者さんの心の性だけでなく、体の性も重要なポイントとなり、多様な悩みを持つ多くの人に安全で安心な医療体制を提供することの難しさも感じ、今後も引き続きWGメンバーで理解を深めながら検討を重ね、病院として早急に体制整備をすすめる必要があることを改めて認識しました。

問合せ先 総務課総務係 TEL: 0853-20-2506



写真2



当院では、医療相談窓口を設けております。受付窓口で話しづらい場合は、病院1階総合受付⑧番窓口で「個室での相談を希望する」旨お声がけください。電話での相談も受け付けています。【医療相談:地域医療連携センター TEL:0853-20-2193】





ご報告

島大病院ニュース 2024年4月

写真1 1.5次避難施設の様子



写真2 JRATミーティング



石川県での災害リハビリテーション支援に参加しました

リハビリテーション部	主任作業療法士	もりわき 森脇	しげと 繁登
	言語聴覚士	くまがい 熊谷	ひでたけ 英岳

2024年1月1日に発生した能登半島地震にて甚大な被害が発生したことをうけ、石川県より一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会（JAPAN DISASTER REHABILITATION Assistance Team：以下、JRAT）＊を通じて全国の地域 JRAT に派遣要請がありました。

島根 JRAT からは2チーム（当院からは森脇作業療法士、熊谷言語聴覚士の2名が参加）を派遣し、1.5次避難施設に位置付けられている「いしかわ総合スポーツセンター」にてリハビリテーション支援活動を行いました。

1.5次避難施設では、輪島市、珠洲市、志賀町等から避難された約120名の要支援者や要介護者が滞在されており、認知症や片麻痺等の病気や障がいを持っておられる方々が避難されている場所です（写真1）。私たちは、避難者の災害関連死の予防に向けて、身体機能、生活機能の評価や運動指導、段ボールベッドの位置調整、仮設トイレや浴室の環境調整などを行いました（写真2）。

避難生活が長期化し、日に日に全身状態が悪化している被災者を目の当たりにすることも多く、能登半島地震の過酷さ、深刻さを肌で感じました。発災して3ヶ月が経ちましたが、被災者の皆様の体調が心配されています。引き続き、私たちに出来ることに取り組んでいきたいと考えています。

＊JRATとは？

「大規模災害時において、救急救命に継続したリハビリテーションによる生活支援等により、生活不活発病等の災害関連死を防ぐ」ことを目的とした団体であり、島根 JRAT は当院リハビリテーション部が事務局を担っています。

問合せ先 リハビリテーション部 TEL：0853-20-2457



2024年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2024年4月

医学部×島根県 高大連携事業

医学部医学科体験イベントを開催しました！

総務課企画調査係

3月6日（水）、医師を目指す高校生が医療施設の見学・体験を通じて仕事の現場を間近に感じ、また医師や高校生との交流を通じて自分の将来や職業に対する理解を深めるきっかけを目指す体験学習イベントが、島根県教育庁主催、島根大学医学部の協力で開催され、県内高等学校3校から17名が参加しました。

初めに救急医学講座岩下義明教授が大学と附属病院について紹介をした後、岩下教授による「救急診療（エコー、挿管シミュレーション等）」（写真1）と、地域医療教育学講座長尾大志教授による「レントゲンの読み方講座（聴診シミュレーション等）」（写真2）の、二つのグループに分かれて実際の診療について学びました。

その後、高度外傷センターを見学した高校生たちは初めて見るハイブリッドER、ドクターカーに目を輝かせ「どのような患者さんが運ばれて来るのか」「救急車とドクターカーの出動基準の違い、出動は誰が決めるのか」など積極的に質問をしていました。

昼休みには学食を利用し、未来のキャンパスライフを体験する高校生もいました。

午後からは、医学科生4名とコミュニケーションゲームでリラックスし、勉強方法や大学での授業、大学生活などについて話し、交流をしました（写真3）。

充実した体験学習を笑顔で終えた高校生たちは「とても楽しく、勉強になった」と感想を話していました（写真4）。

本学部は今後も様々な取組を通じて、医療に興味を持つ高校生に、学びや体験の機会を提供して参ります。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL：0853-20-2018



2024年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



写真1

挿管シミュレーションの様子



写真2

聴診シミュレーションの様子



写真3

医学科生との交流



写真4

指導者と一緒に記念撮影